

泉南市 くらしやすいまちづくりに関する アンケート調査報告書 【概要版】

■ 調査の目的

この調査は、市民の人権問題に関する意識等を把握し、今後の人権行政を推進していくうえで基礎資料を得ることを目的として実施しました。

■ 調査設計

- 調査対象 16歳以上の市民3,010人
※年代別の回答者数を平準化するために、10歳代から70歳以上の7区分で各区分430人ずつ抽出しました。
- 調査方法 郵送により調査票を配布、郵送またはインターネットにより回答
- 調査期間 令和4年9月26日(月)～10月11日(火)
- 有効回収数 975件(32.4%)

■ 調査内容

- さまざまな人権問題に関するあなたの考え方について
- 差別や人権尊重に関するあなたの意識や考え方について
- 人権侵害を受けた経験について
- 人権に関する学習に関して
- 部落差別(同和問題)について
- 人権に関する言葉や施設などについて

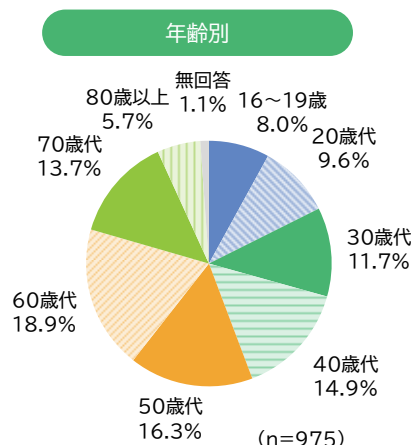
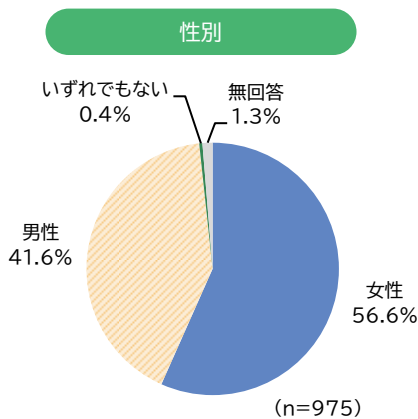
■ 表記について

- 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

■ 回答者の属性

回答者の性別は、「女性」56.6%、「男性」41.6%、「いずれでもない」0.4%となっています。

回答者の年齢は、「60歳代」が18.9%で最も高く、次いで「50歳代」16.3%、「40歳代」14.9%と続き、40～60歳代が約半数を占めています。



概要版よりも詳しい「報告書」は、泉南市公式ホームページでご覧いただけます。

令和5年3月
泉南市
泉南市樽井一丁目1番1号
電話 072-480-2855 Fax 072-482-0075

■ 女性の人権

『問題があると思う』(「問題があると思う」と「どちらかといえば問題があると思う」の合計。以下も同様)は、「(3)仕事の採用、賃金、昇進などに男女で格差があること」(80.6%)が最も高く、その他の項目では約 5 割から 6 割となっています。一方で、『問題はないと思う』(「問題はないと思う」と「どちらかといえば問題はないと思う」の合計。以下も同様)をあげる割合は、他の人権問題に比べてやや高い傾向です。

■ 子どもの人権

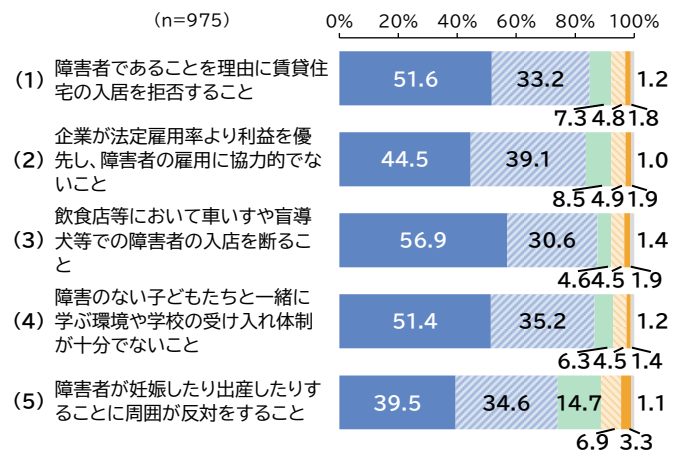
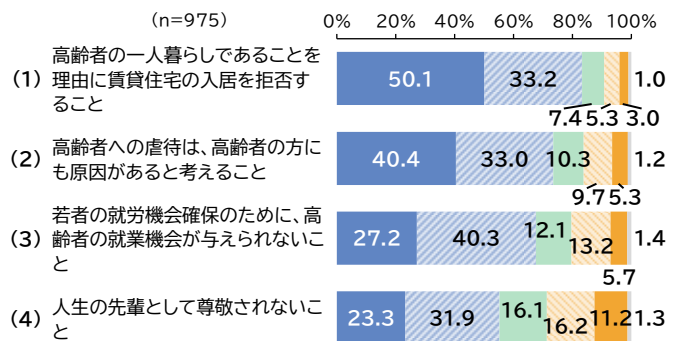
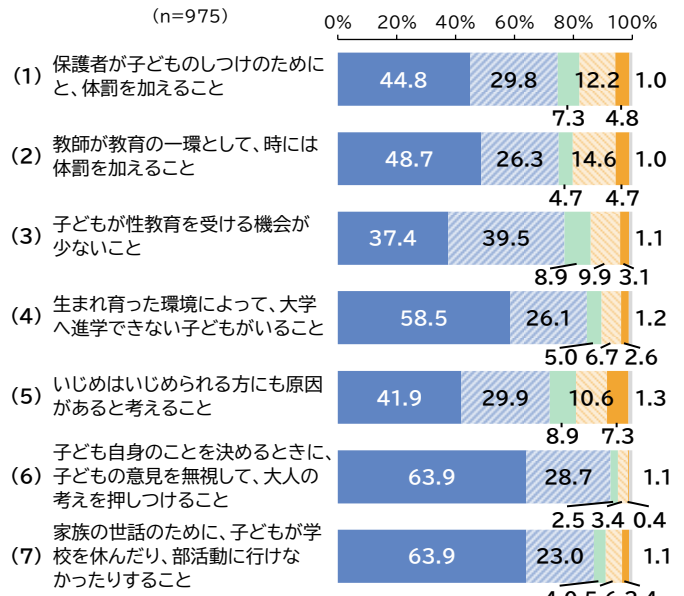
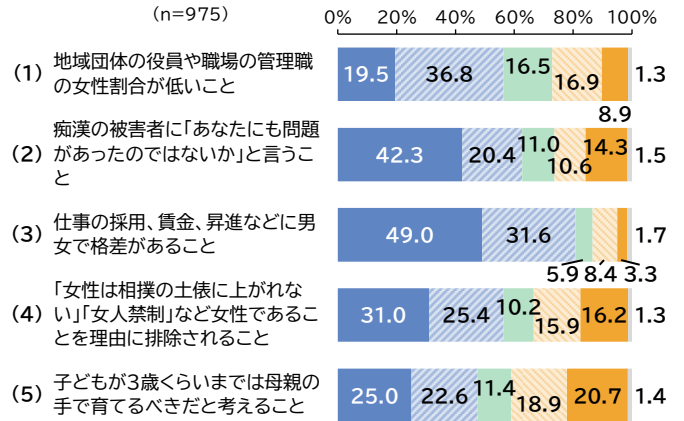
『問題があると思う』は、「(6)子ども自身のことを決めるときに、子どもの意見を無視して、大人の考えを押しつけること」(92.6%)を筆頭に、すべての項目が 7~8 割以上で全般に割合が高くなっています。

■ 高齢者の人権

「(1)高齢者の一人暮らしであることを理由に賃貸住宅の入居を拒否すること」(83.3%)では、『問題があると思う』が 8 割を超える一方で、「(4)人生の先輩として尊敬されないこと」(55.2%)は 5 割台となっています。

■ 障害者の人権

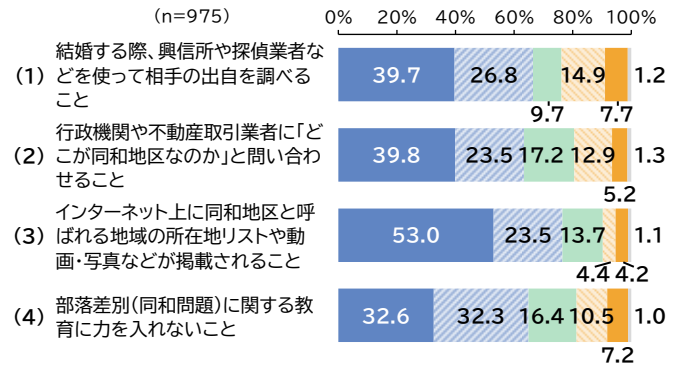
『問題があると思う』は、「(5)障害者が妊娠したり出産したりすることに周囲が反対をすること」(74.1%)が他の項目と比べて低く、他はすべて 8 割以上となっています。



■ 問題があると思う ■ どちらかといえば問題があると思う ■ わからない ■ どちらかといえば問題はないと思う ■ 問題はないと思う ■ 無回答

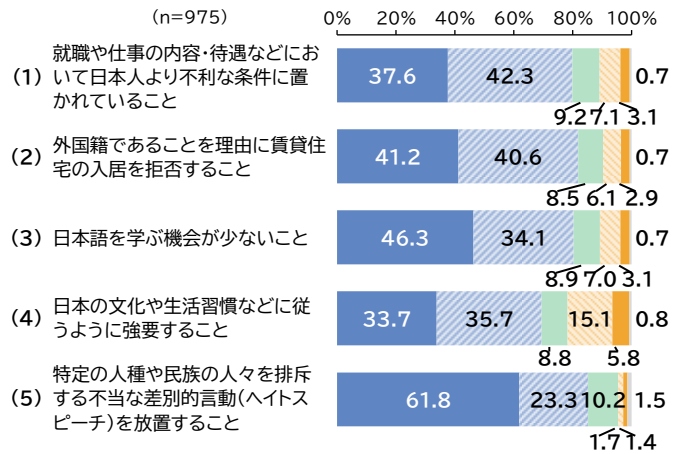
■ 部落差別(同和問題)

「(3)インターネット上に同和地区と呼ばれる地域の所在地リストや動画・写真などが掲載されること」では、『問題があると思う』が76.5%で、他の項目と比べて高くなっていますが、他の項目はすべて6割台となっています。一方で、『問題はないと思う』が2割程度存在しています。



■ 外国人の人権

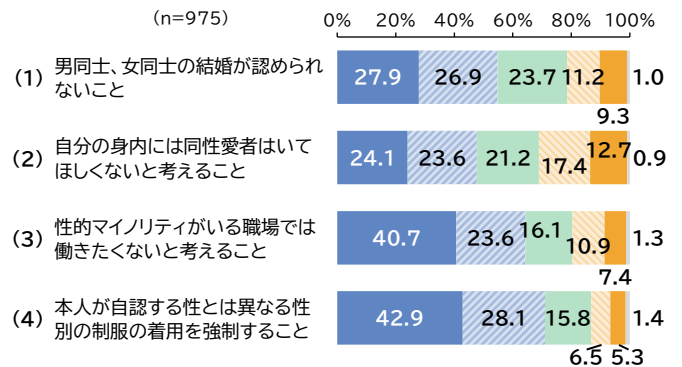
5項目のうち4項目で、『問題があると思う』が8割前後であるのに対して、「(4)日本の文化や生活習慣などに従うように強要すること」では7割弱で低くなっており、逆に、『問題はないと思う』が20.9%で、やや高くなっています。



■ 性的マイノリティの人権

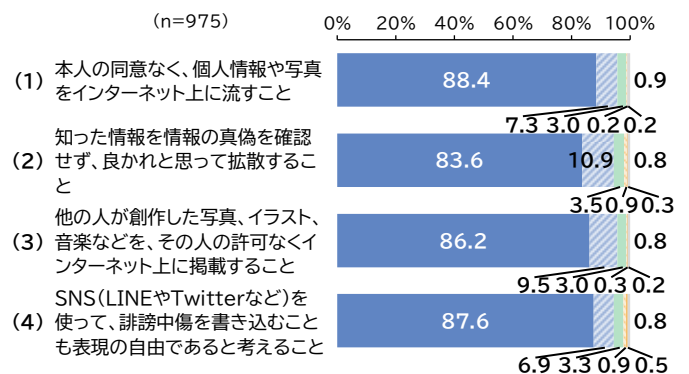
『問題があると思う』は、「(4)本人が自認する性とは異なる性別の制服の着用を強制すること」(71.0%)、「(3)性的マイノリティがいる職場では働きたくないと思えること」(64.3%)、「(1)男同士、女同士の結婚が認められないこと」(54.8%)の順になっています。

「(1)男同士、女同士の結婚が認められないこと」と「(2)自分の身内には同性愛者はいてほしくないと思えること」では、2割以上が「わからない」と回答しています。



■ インターネットにおける人権問題

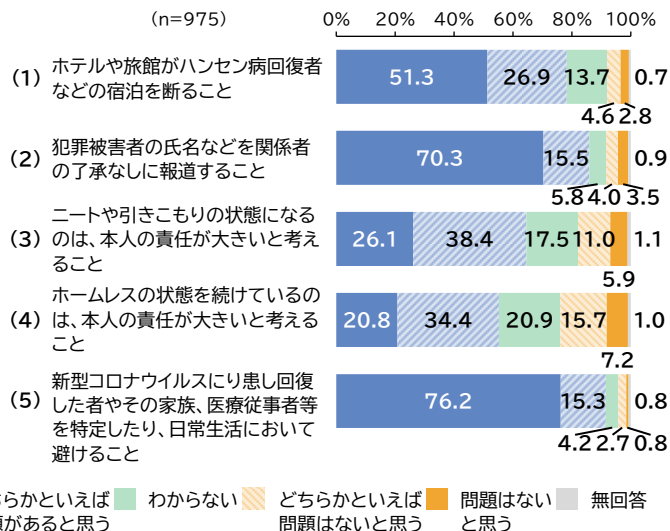
すべての項目に対して『問題があると思う』人がほとんどを占めています。インターネットにおける人権問題は、広く共有され問題意識を持たれています。



■ 問題があると思う ■ どちらかといえば問題があると思う ■ わからない ■ どちらかといえば問題はないと思う ■ 問題はないと思う ■ 無回答

その他の人権課題

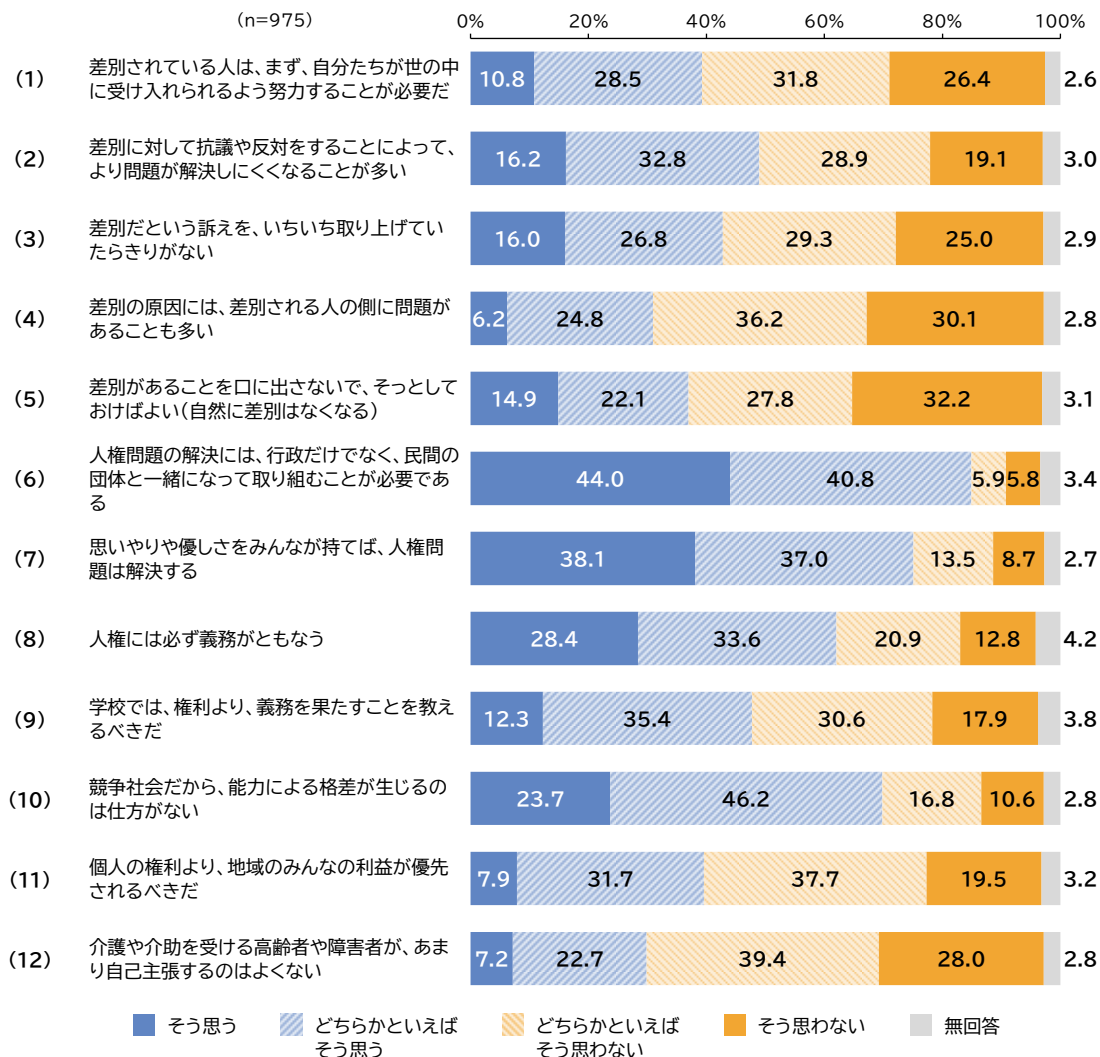
その他の人権課題では、『問題があると思う』は、「(5) 新型コロナウイルスに罹患し回復した者やその家族、医療従事者等を特定したり、日常生活において避けること」(91.5%)、「(2) 犯罪被害者の氏名などを関係者の了承なしに報道すること」(85.8%)、「(1) ホテルや旅館がハンセン病回復者などの宿泊を断ること」(78.2%)の順に高くなっています。一方で、ニートやホームレスなどの人に対しては自己責任と考える人が一定割合存在しています。



2 差別に関する基本的な認識

差別や人権尊重に関する様々な考え方についてみると、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)は、「(6) 人権問題の解決には、行政だけでなく、民間の団体と一緒にやって取り組むことが必要である」(84.8%)、「(7) 思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」(75.1%)、「(10) 競争社会だから、能力による格差が生じるのは仕方がない」(69.9%)の順に高くなっています。

一方で、『そう思わない』(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)は、「(12) 介護や介助を受ける高齢者や障害者が、あまり自己主張するのはよくない」67.4%、「(4) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い」66.3%が高くなっています。



3

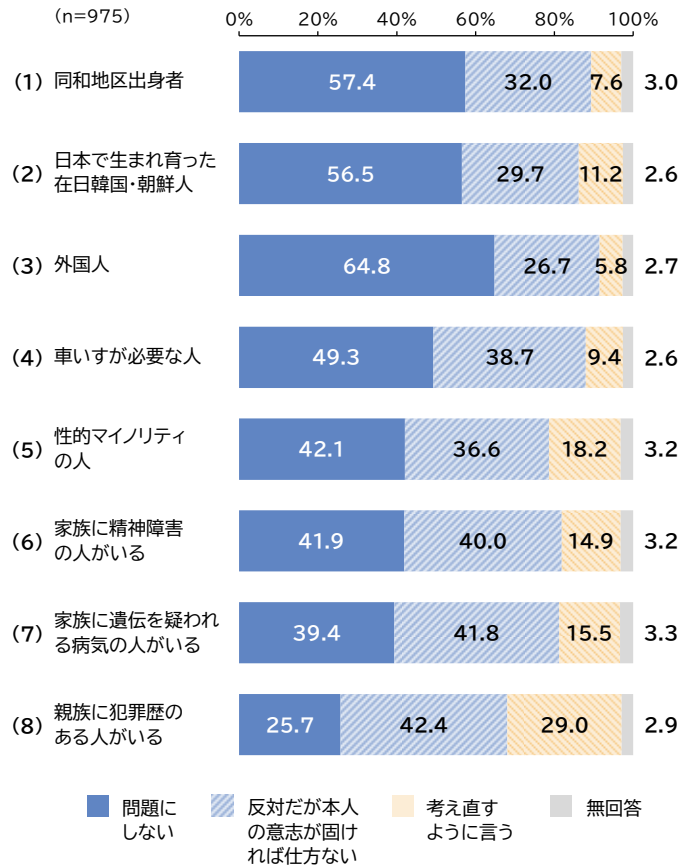
結婚相手の状況によりとる態度の違い

身内の結婚相手の状況によって自分がとる態度では、「問題にしない」は、「(3)外国人」(64.8%)、「(1)同和地区出身者」(57.4%)、「(2)日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人」(56.5%)の順に高くなっています。

一方で、「考え直すように言う」の比率が高いのは、「(8)親族に犯罪歴のある人がいる」29.0%、「(5)性的マイノリティの人」18.2%、「(7)家族に遺伝を疑われる病気の人がある」15.5%、「(6)家族に精神障害の人がいる」14.9%と続きます。

今回調査を 2012 年に実施した調査結果と比較すると、比較できるいずれの項目*も、「問題にしない」、すなわち、排除しないという比率が増加しています。

※「(3)外国人」「(5)性的マイノリティの人」以外のすべての項目が比較可能な項目です。

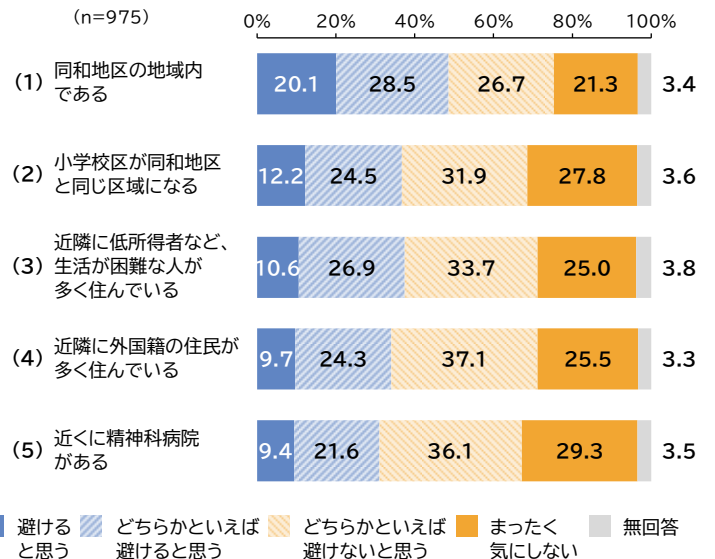


4

住宅を選ぶ際の忌避意識

住宅を選ぶ際に避けるかどうかの意識では、『避けると思う』(「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」の合計)は、「(1)同和地区の地域内である」が48.6%で5割近くとなっており、その他の項目はいずれも3割を超えています。

住宅を選ぶ際の忌避意識は、2012年調査よりも今回調査のほうが、いずれの項目も弱くなっています。



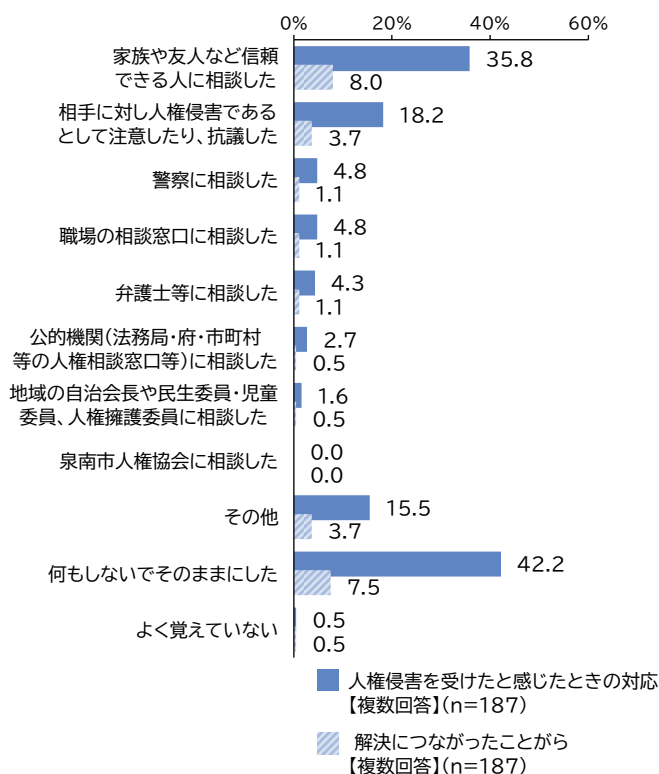
5 人権侵害を受けた経験について

人権侵害と感じたことの有無では、「ある」19.2%、「ない」57.6%となっています。

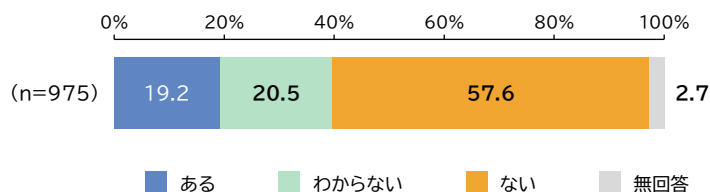
人権侵害と感じた内容では、「学校でのいじめ」が7.5%で最も高く、次いで「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」7.0%、「パワー・ハラスメント(職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ)」6.5%となっています。(全回答者に対する比率)

人権侵害を受けたと感じたときの対応内容では、「家族や友人など信頼できる人に相談した」35.8%、「相手に対し人権侵害であるとして注意したり、抗議した」18.2%があげられている一方で、「何もしないでそのままにした」42.2%が最も高くなっています。

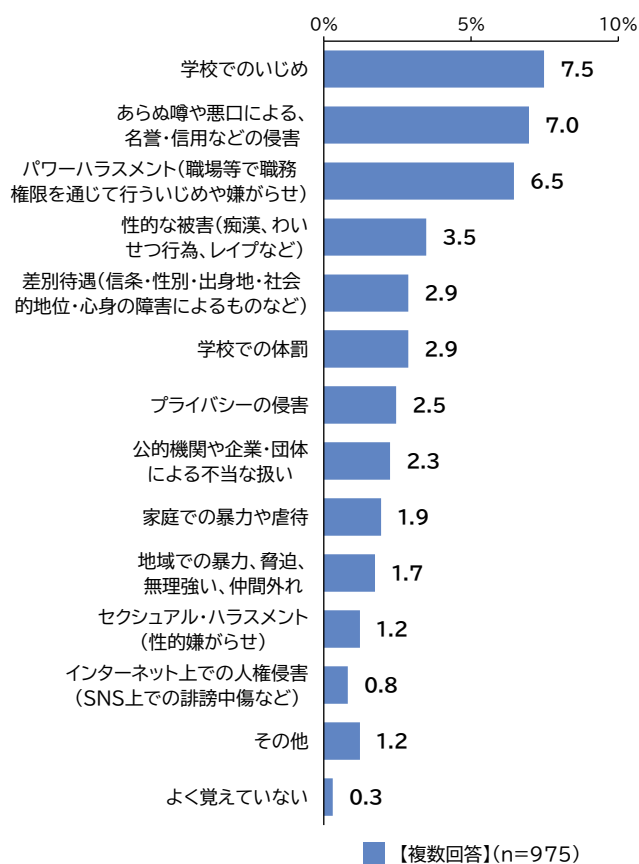
人権侵害を受けたと感じたときの対応



人権侵害と感じたことの有無

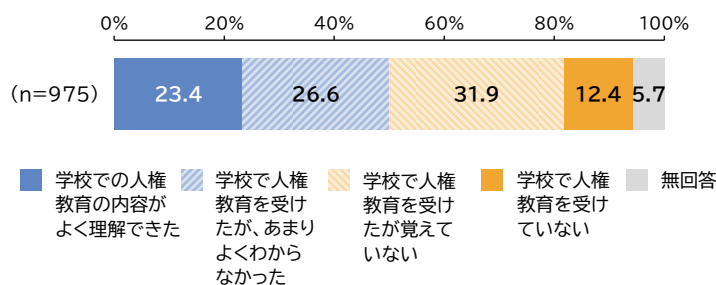


人権侵害と感じた内容



6 学校における人権教育の状況

学校における人権教育の状況についてみると、「学校での人権教育の内容がよく理解できた」23.4%、「学校で人権教育を受けたが、あまりよくわからなかった」26.6%、「学校で人権教育を受けたが覚えていない」31.9%となっており、覚えていない人の比率が最も高くなっています。

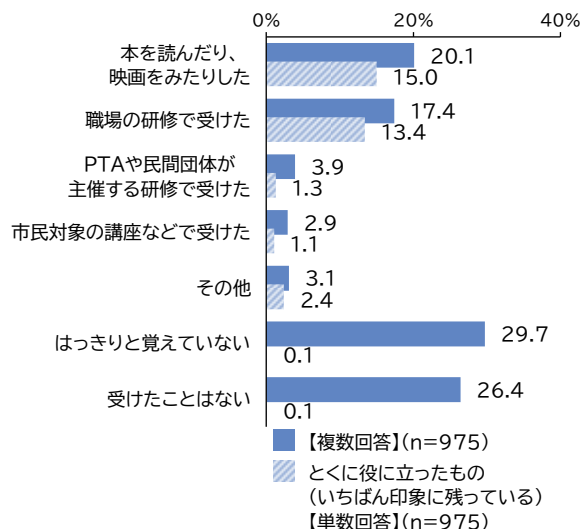


7

小・中・高校以外の場における人権学習の状況

小・中・高校以外の場における人権学習については、「本を読んだり、映画をみたりした」20.1%、「職場の研修で受けた」17.4%の回答がある一方、「はっきりと覚えていない」が29.7%、「受けたことはない」が26.4%と高くなっています。

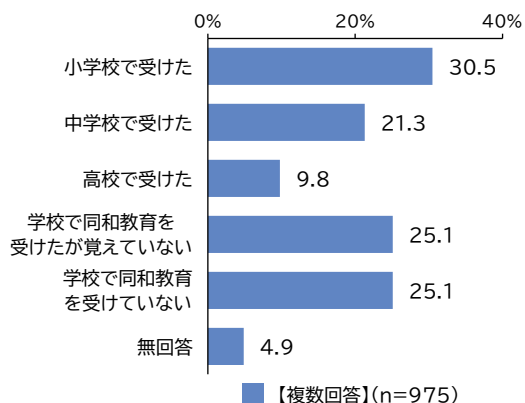
とくに役に立ったもの(いちばん印象に残っているもの)では、「本を読んだり、映画をみたりした」15.0%が最も高く、次いで「職場の研修で受けた」13.4%となっています。



8

学校における同和教育の状況

学校における同和教育についてみると、「小学校で受けた」30.5%、「中学校で受けた」21.3%であり、他方、「学校で同和教育を受けたが覚えていない」と「学校で同和教育を受けていない」がいずれも25.1%となっています。

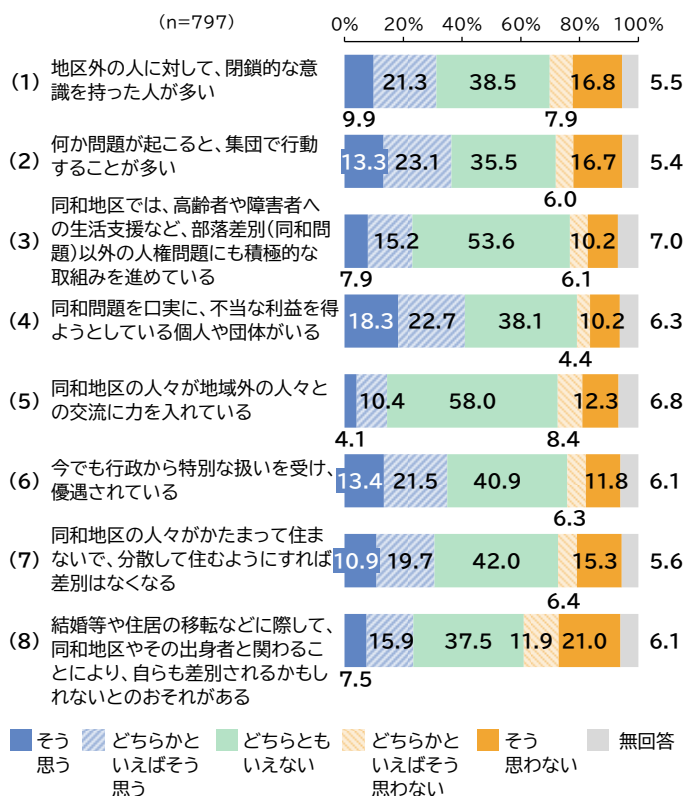


9

同和地区に対するイメージ

部落差別(同和问题)について知っているという回答した797人が持つ同和地区に対するイメージでは、『そう思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)は、「(4)同和问题を口実に、不当な利益を得ようとしている個人や団体がいる」が41.0%で最も高く、次いで「(2)何か問題が起こると、集団で行動することが多い」36.4%、「(6)今でも行政から特別な扱いを受け、優遇されている」34.9%となっています。

2012年調査と比較すると、「(1)地区外の人に対して、閉鎖的な意識を持った人が多い」「(2)何か問題が起こると、集団で行動することが多い」「(4)同和问题を口実に、不当な利益を得ようとしている個人や団体がいる」「(6)今でも行政から特別な扱いを受け、優遇されている」「(7)同和地区の人々がかたまって住まないで、分散して住むようにすれば差別はなくなる」などのマイナスイメージが改善しています。



10

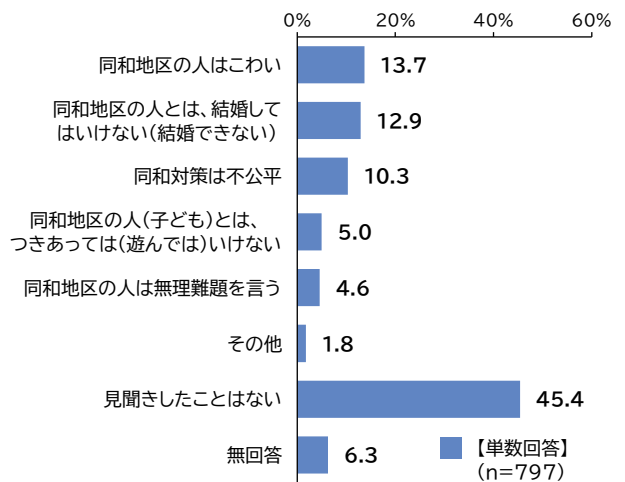
同和地区に対する差別的な発言や行動についての見聞き状況

同和地区に対する差別的な発言や行動を見聞きした経験は、「同和地区の人はこわい」13.7%、「同和地区の人とは、結婚してはいけない(結婚できない)」12.9%、「同和対策は不公平」10.3%となっており、何らかの差別的発言や行動を見聞きした人は、48.3%にのびります。「見聞きしたことはない」は45.4%と、2012年調査より大きく増加しています。

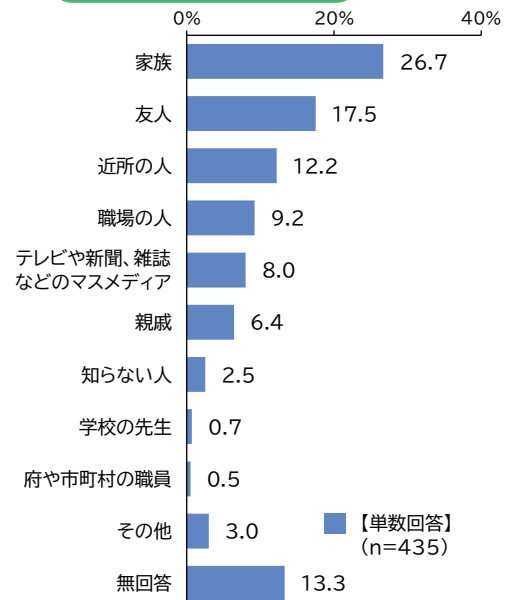
誰から見聞きしたのかは、「家族」の26.7%が最も高く、次いで「友人」17.5%、「近所の人」12.2%、「職場の人」9.2%、「テレビや新聞、雑誌などのマスメディア」8.0%となっており、2012年調査よりも、「家族」および「友人」の比率が増加しています。

同和地区に対する差別的な言動を見聞きしたときの受け止め方では、「そのとおりと思った」11.7%、「そういう見方もあるのかと思った」46.0%、「反発・疑問を感じた」17.7%、「とくに何も思わなかった」12.0%となっています。

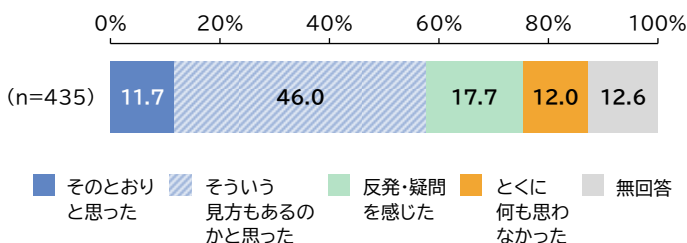
見聞きしたことがある同和地区に対する差別的言動



誰から見聞きしたか



見聞きしたときの受け止め方



11

同和地区やその住民との関わり

同和地区やその住民との関わりについてみると、「同和地区や同和地区出身の人との関わりはまったくない」30.5%が最も高くなっています。他方、「親しく付き合っている人がいる」12.4%、「同和地区内の公共施設等を利用したことがある」9.9%、「同和地区やその近くに住んでいたことがある」8.9%、「盆踊りやまつりなど、同和地区の人との交流事業やイベントに参加したことがある」7.7%となっています。

また、同和地区や同和地区出身者との関わりが度合いが高いほど、排除・忌避する意識が低くなる傾向にあります。

